

別記

審議概要

1 公開案件の審議

(1) 報告1 令和3年度(2021年度)北海道教育庁等組織機構改正について

ア 説明員 山本総務政策局長兼幼児教育推進局長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】

資料1ページを御覧ください。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、児童生徒の感染や集団感染が多数発生していることから、学校における感染状況の早期把握や情報の一元化、対策の強化等を図る体制を整備するため、学校教育局に新型コロナウイルス感染症対策担当局長を置くこととしました。

また、組織機構上の整理は要さないものの、この担当局長の下に、感染症対策チームを設置し、感染状況の早期把握、情報の集約、分析などを行う予定です。2ページは、組織改正を新旧で示しています。

説明は以上です。

【小玉教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【渡辺委員】

感染症対策チームというのは、何人くらいの規模になる予定でしょうか。

【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】

チームについては、現在のところ13名で構成する予定です。

【橋場委員】

今回の機構改正の趣旨なのですが、窓口を一本化して、正しい情報の共有化、時間を短くしようという理解でよろしいでしょうか。

【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】

現在、札幌市との対応、各管内教育局と市町村立学校や市町村教育委員会との対応は、高校教育課や義務教育課が、それぞれセクションごと

に行っており、全道的な方針を示すという点では、これまでどおりの取扱いとなります。ただ、今後は、この対策チームを設置し、窓口を1つにしてコロナ関係の情報の入り口を集約し、整理していくこととなります。

【山本委員】

情報の整理、共有化を図るためのチームであり、学校での対応が変わるということではないということですね。

【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】

はい。ただ、これまでは、それぞれの担当セクションが各学校と連絡を取っていましたが、内容によっては、対策チームで自ら判断し、直ちに指示、助言を行っていくことも考えられます。

【渡辺委員】

このチームは、情報の一元化が目的ということですが、対策の立案にまで踏み込んでいくのでしょうか。

【山本総務政策局長兼幼児教育推進局長】

対策の立案は、専門のセクションで行い、道教委としての意思決定をして実施していくこととなります。対策チームでは、その原案作成には関わるかもしれませんが、方針を決めるというところまでは行いません。

【小玉教育長】

対策の判断材料になる情報を収集し、まとめることが目的になります。

現状として、札幌市以外の公立学校については、リアルタイムで収集しているところですが、札幌市については、札幌市が別に収集していますし、私立学校については、学事課でまとめているので、それらを、なるべく早く一元化していきたいということです。

最近は、学校を休ませる対象を広く捉えていますので、その結果として、学校で非常にまん延しているように見えますが、実際には、感染を押しえ込んでいるという状況もあります。現状として、休業措置を強め強めに取っていますが、その状況を踏まえつつ、学びを守りながら、どのような安全対策が取れるのかということとの調整をしていくことが重要になってくると思っています。

また、最近、オンライン授業が進んでいないという話もありますので、どのようなサポートが求められているのかというのを知る上でも、基盤をしっかりとしなければならないと思っています。

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【小玉教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、原案どおり決定したいと思います。よろしいですか。

《委員了承》

【小玉教育長】

それでは、この件は決定します。

(2) 議案第1号 学校運営協議会の設置（道立特別支援学校）について

ア 説明員 川端特別支援教育担当局長

イ 結論 原案どおり決定

ウ 審議内容

【川端特別支援教育担当局長】

この度、北海道苫小牧支援学校から申請があったことから、学校運営協議会を設置しようとするものです。

資料1 ページの下段に、本年4月1日現在の学校運営協議会の設置状況を記載していますが、道立特別支援学校については、現在、夕張高等養護学校ほか、記載の17校に設置しています。

2 ページを御覧ください。今回、学校運営協議会を設置する学校の概要を記載しています。苫小牧支援学校は、本年4月1日に設置した学校ですが、苫小牧市やその周辺地域の特別支援学校に対するニーズを踏まえ、小・中学部のみを設置する学校として開校したものです。

「学校及び地域の状況等」の4点目に記載していますが、例えば、地域施設の清掃活動や職場体験などを通して、児童生徒の経験を広げ、社会性や豊かな心を育成するために、地域の教育資源を活用した学習活動など創意ある教育に取り組むこととしています。

その下に、「特徴及び期待される効果」として、2点記載していますが、「地域と共に学び、地域と共に育つ人材の育成」を目指し、地域住民や関係機関と意見交換を行い、協働することにより教育活動の充実が図られることが期待されます。

また、苫小牧支援学校には高等部がないことから、中学部卒業後、生徒は、一度地域を離れることが多いことが想定されますが、例えば、他地域の高等部などを卒業後に再び地域に戻り、地域で過ごすことができる基盤が整備されることが期待できると考えています。説明は以上です。

【小玉教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【青山委員】

既に学校運営協議会を設置している学校では、設置によってどのよう

な違いが生まれ、教育活動がどのように豊かになっているのでしょうか。

【川端特別支援教育担当局長】

例えば、設置校のうち、雨竜高等養護学校では、地元のライオンズクラブの方々を指導者として、児童生徒に対するパークゴルフ体験を実施したり、地域の福祉施設と連携した避難訓練を実施したりしており、こうした地域との連携による教育活動を実施することにより、地域住民の障害者理解の促進が図られているなどの報告が寄せられています。

【青山委員】

今回の学校は、児童生徒の経験を広げたいということを考えて申請したということだと思いますが、学校運営協議会が非常に良い取組であることを理解してのことということですね。

【川端特別支援教育担当局長】

はい。そのとおりです。

【川端委員】

既に、特別支援学校17校で学校運営協議会が設置されているということですが、北海道教育委員会所管の学校のうち、どのくらいの割合で設置されているのでしょうか。

【川端特別支援教育担当局長】

特別支援学校は67校あり、今回、設置するのは18校目ですので、約26パーセントとなっています。参考までに、全国的な導入率を調べてみると、全国の特別支援学校では18.3パーセントということであり、全国よりも若干高い値となっています。

【川端委員】

小学生がバラバラと1人で歩いているのをよく見かけますが、恐らく、小学部や中学部の子供たちは、同じことをしていても、より様々なことが起こっているように感じて、苦勞しているのだらうと思います。ただ、地域の方々としても、それを分かっている、なかなか関わりづらいついところがあると思います。様々な機会の中で、地域とのコミュニケーションや協働をすることにより、理解が広がっていくことであれば、全校での設置に向けて、更に支援していただきたいと思います。

【小玉教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

【山本委員】

この後、学校運営協議会の委員を任命することになるかと思いますが、想定している委員の構成が明らかになっているのであれば、その構成をお知らせいただきたいと思います。

【川端特別支援教育担当局長】

今のところ、人選についての情報は受けていません。

他の17校での委員では、例えば、地域住民、保護者、福祉施設、商工会議所職員といった方が割と多く選ばれていますので、苫小牧支援学校についても、そのような分野から人選されるものと考えています。

【山本委員】

地域の教育資源の活用、また、小・中学校との交流及び共同学習という記載もありますので、より適切な委員の選任を通して、教育活動が効果的に進んでいくことを期待しています。

【小玉教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

【橋場委員】

私の記憶では、道立の特別支援学校で、初めてコミュニティ・スクールができたのが大体3年くらい前だったと思うのですが、そのような理解でよろしいでしょうか。

【川端特別支援教育担当局長】

はい。第1号は夕張高等養護学校であり、平成30年度（2018年度）に設置しました。

【橋場委員】

ありがとうございます。

【小玉教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

≪委員から質問・意見なし≫

【小玉教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、原案どおり決定したいと思います
ますがよろしいですか。

《委員了承》

【小玉教育長】

それでは、この件は決定します。